

令和5年8月（第8回）教育委員会会議議事録

1. 開催の日時及び場所

令和5年8月1日（火）18:00～20:00

市役所本庁 4階 教育委員室

2. 出席委員の氏名

野口 政吾 教育長

田村賢二郎 委員

山野あい子 委員

川崎 裕美 委員

重村 美帆 委員

3. その他議場に参加した者

佐々木学校教育次長同格、堀学校教育指導係長

4. 傍聴者

なし

5. 要 旨

事務局 : それでは定刻になりましたので、本日の教育委員会会議を始めたいと思います。教育長よろしく申し上げます。

教育長 : ただいまから第8回の教育委員会会議を開催いたします。本日は教育委員全員の出席がありますので、会議として成立ということをお知らせいたします。本日の議題ですが、議案第12号本市小学校教科用図書の採択についての一件で、その他の事項はありません。また、本日の議題については、他の影響を受けない静謐な環境で少しずつ行う必要があるため、前回7月20日の教育委員会会議の際に事前に決議したとおり、会議は非公開とします。異議はございませんか。前回、調査委員・選定委員さんの方からの意見も伺っておりますので、それらも踏まえながら進めていければと思います。それでは事務局から説明をお願いします。

事務局 : 先日はありがとうございました。たくさんご意見いただきまして、両市とも前に進むことができましたと思います。選定委員会において、調査員から説明があったり選定委員からの質問に答えたりしたものについて、ポイント別にまとめましたので、参考にしてください。もちろん、それですべてということではありません。本日もご協議のほどよろしく申し上げます。

教育長 : それでは、種目ごとに進めていければと思います。まず国語です。どんな意見でも構いませんので、皆様方から率直な意見を聞きたいと思います。どんな意見でも構いません。

委員 : 読んでいるときは東京書籍が私は一番良いと感じたのですが、内容がとても難しく、取り掛かりにくいという印象がありました。今使っている光村図書は、1年生でいうと「おおきなかぶ」や「おむすびころりん」、3年生下で「三年とうげ」等、リズム感のある文章が多く、読書活動を推進している本市の中で、読書をする力をつけるにはやはり国語が一番重要だと思います。リズム

よく読めて、学童等でも使いたくなる、みんなで読めて楽しいと思います。光村図書が一番本市の子どもたちに合っているのではないかと思います。

教育長 : ありがとうございます。他に、いかがでしょうか。

委員 : やはり私も光村図書はとても良いのですけれども、各単元が終わったところでどういうふう to 考察するかというところで、「問いを持とう」、「見通しを持とう」などというところがきっちりしていて、質問の仕方がユニークな、「ただどう思いましたか」ではなくて、「その人の気持ちになって手紙を書いてみよう」とかいろいろな入り方で教材を深めていけるのかなと思ったので、先生方も単調でなく、ちょっと角度を変えた考察をみんなのできるようになるだろう、というところが光村図書は良いと思いました。

教育長 : ありがとうございます。他はいかがでしょう、

委員 : 私は東京書籍の良さも感じる場所ですが、本市の先生方は、光村図書をとっても長いこと使っているから、特に文学教材等については、本当によく教材研究をされています。光村図書は国語の学びの流れがとても分かりやすいということが、委員が言われたようにとても感じる場所です。それから、主体的に課題解決を行う過程というところで、言語能力が育成されるように配慮がされているというところも良い点だと感じます。やはり、対話を通して学びを深めるという協働的な学びをイメージしやすく工夫されているので、本市の子どもたちにとっては、学び合いをするときにこの教科書を使うというのはとても良いと感じます。

委員 : 私も今回、題材に対してどういう取組とか見通しを各教科書がしているかという視点で見たのですけれど、教育出版は「見通しを持とう」というのはあるのですが、ちょっと東京書籍と光村図書に比べると少し分かりづらい提示だったかなと感じました。東京書籍は単元ごとに取り組む手順が同じような形ですと提示されていたので、子どもたちにとっては取り組みやすいとは感じましたが、やはり光村図書の方は「問う」という書き方がされていて、子どもたちが教材単元をどう考えていくかというところが、まず先に出されていたので、どういう視点でこの物語を読んでいったらいいか、というところが3社の中では分かりやすかったというふうに思いました。

教育長 : ありがとうございます。私も、写真、絵とかデザインなど、とても子どもたちの思考が感情に入りやすい。美しく、本当にふさわしい絵が使っており、教員も写真・絵を授業で使うわけですね。板書などにもですね。今はデジタルの時代だから電子黒板などの画面上かもしれませんが、そういうときに本当にこの光村図書の子どもに訴える思考や視覚、そういう感覚に訴える文章とイラストのバランスがとても良いと思いました。ということで、国語は光村図書を推薦いたします。では、書写です。3社あります。また、誰からでも結構ですので、ご意見をお願いいたします。

委員 : はい。国語の教科書に出てくる文章が書写の中に出てくるので、国語の教科書とリンクしているページがある光村図書が良いと思います。ひらがなの表記（撥ね部分）の件もありました。これもあり、光村図書が良いと思います。

委員 : 私も国語の教科書とリンクしている光村図書が良いのではないかと思うのと、(教科書の)横のサイズが半紙のサイズと大体同じぐらいであり、書いたりするとき、そのサイズ感というのが分かりやすいと思って、光村図書が良いと思います。

教育長 : ありがとうございます。他にいかがですか。

委員 : 私も、光村図書が「大切」という字(の学習)を設けていたのですけれど、「同じ要素を持つ他の漢字と比較する」という教材もあって、文字を覚えていく、書くという大切さみたいなものが、光村図書が一番分かりやすいなというふうに思いましたので、私も光村図書が良いと思います。

教育長 : ありがとうございます。

委員 : やはり国語と同じということで、光村図書が良いのかなと思うし、SDGsについても書いてあったりとか、地図の書き方が面白かったりとかというところで光村図書が良いというふうに感想を持ちました。

教育長 : はい、私も一週間前の会議のときに確認したように、国語と教科書が合っていないと子どもたちが混乱するというか、教員もすぐ教えられない(混乱する)。内容については3社の特徴はそれぞれあるのですけれど、光村図書が一番教科書と合っているという視点で、私は望ましいと思いました。ということで、全会一致で光村図書を推薦してよろしいですか。ありがとうございました。続きまして、社会科です。社会科は3社です。それでは、どうぞご意見ください。

委員 : 東京書籍は、上下の2冊になっていて持ち運びの負担がないことと、問題解決的な学習を促す、つかむ、まとめる、生かす、ということが、毎回同じように出てくるので、子どもたちの思考では、とても分かりやすいのではないかということ、の2点を感じました。それと主体的・対話的な学びの進め方が示してあるので、本市の学び合いにも合致すると思いました。学習を生かして社会的な事柄に参画するとか提案するとか発信するというところで、地域社会の一員としての自覚を高められるようなことが単元の終わりに出ているので、私は東京書籍が良いと思いました。

委員 : 前の時も言いましたが、この3社ともちょっと登場人物の情報量の多さが気になりました。東京書籍は記述する項目があるので、問いを持ったならそれをまとめて文章化していくというところは東京書籍が一番良いのかなと思いましたので、今まで通り私も東京書籍が良いかなと思います。

教育長 : 他にございますか。

委員 : 前から思っているところですが、地図も東京書籍があつてセットだったらもっと本当は良いのだろーと思いますけれど、やはり東京書籍の方が社会の教科書としては使いやすーと感じます。東京書籍をわざわざ変えなければいけない

ほどの突出したものが、教育出版とか日本文教出版にあるわけではないと思いました。

教育長 : はい、では委員さん。

委員 : 一文がとにかく情報量が多くて読みにくいと思ったのが日本文教出版でした。見慣れている教科書でないこともあるのかもしれないですけど、(東京書籍は)情報量として適度かなというのと、何をここで学びたいのかということが、子どもたちが見ても明確だと思ったので、東京書籍が分かりやすいと思いました。

教育長 : 私がやはり東京書籍が一番良いと思うのは、テーマとして「授業づくりサポート」というのを挙げていて、小学校の特に若い教員は社会でどのように教えて良いか悩みますよね。導入で工夫した疑問や課題を提示し、こういうふう具体的に調べて、こういうふうにとまとめていけば良い、という点では、特に分かりやすいのが東京書籍だというふうには感じました。では、東京書籍を推薦することによってよろしいですか。それでは、続きまして地図2社です。先ほどの国語の論で言えば、教科書と一緒に良いのではないかとありますが、いかがでしょうか。意見がありましたらお願いします。

委員 : 帝国書院を推します。どうしても色合いの慣れはあるので、大きな違いを感じました。東京書籍は地図内の「イラスト部分」が多いです。シンプルで見やすく資料も多いので、帝国書院の方がその分いろいろ思うところあって資料を載せられているのかなと思います。

教育長 : 他はよろしいでしょうか。

他委員 : (うなずき)

教育長 : では、帝国書院の推薦でよろしくをお願いします。

委員 : 算数は、最初に先日お尋ねしていたことを聞きたいです。学力がどうなったか、学力が下がっていないかどうか。

事務局 : 実際に受けている子どもたちは違うので、十分な考察は難しいのですが、全体的に6年生の成績は、わずかに上昇。平均に近づいているところです。前回の採択後、諸要因はあるかと思いますが、成績が大きくマイナスになっている状況ではないです。

委員 : ありがとうございます。前回、学校図書が良いと思われたのは、本当に導入がよく、身の回りのことから入りやすいという理由でした。採択後、大学の附属小学校も使用しているところから、安心した経緯があります。また、準拠算数セットについて、これまでの啓林館と比較して内容物が少ないことも懸念していたところです。実際、今回使ってみて学力がどうかと思っていましたが、安心しました。紙面も、横開きでとても広いです。そうすると、とても見やすいですね。例えば位取りのページでは、思考を妨げるものがないところが良いと思いました。それから1000までの数、他社は、一つ見本の考えが作ってあるのですが、そうすると、その解法に執着してしまうので、「考える」とい

う大切な部分が弱くなります。子どもたちが自分たちで考えていろんな考えを出していくというときには、学校図書は良いなというふうに感じました。今回の採択では、そのまま学校図書でいていただけるとありがたいと思います。

教育長 : ありがとうございます。他にありますか。

委員 : 私も学校図書が良いと思っています。他の教科書、特に啓林館などですが、算数的算数の教え方って言ったら良いのでしょうか、順序立てるという意味では良いのですが、やや専門的です。学校図書は問いかけを大事にするのですよね。「なぜこうなるか」を問うので、今求められている国語的算数という表現で良いかと思うのですが、算数しかり、理科しかり、社会しかり、今全体的にいろいろな問題を国語の力で問いかけにより考えていくというスタイルが強くと求められている中で、最適と考えます。それから、繰り返し理解するための学びが取り入れられていて、つまりポイントにしっかりと問いかけが入って、理解につなげているという点で学校図書を選びたいと思います。

教育長 : ありがとうございます。

委員 : 現場の先生の意見を聞いたことがあって、「やはり啓林館のほうが良かった」と、その方は言うておられたのですが、「どういうふうにそう思われたのですか」と尋ねたら、「使いやすいから」ということでした。「特に、見開きでその時間に学ぶことがしっかりあるようなページレイアウトにしてある」などと言っておられました。そういった観点で特に見ていたのですが、そこについて学校図書と大きな差を感じませんでした。ですので、再三変更するよりもそのままいく方が良いのかな、と考えます。

教育長 : ありがとうございます。ほか、いかがですか。

委員 : 私は教員ではないので専門的なことは分からないのですが、教科書を持って帰ってきた子どもが「ここが分からない」と聞いてきたときに、自分が先生と同じような教え方で、この教科書を見たら教えることができるだろうと感じたのが学校図書の教科書でした。見出しの言葉の差だけですが、普段「問題」とあるところに「できるようになったこと」とあって、「課題(問題)」・「確かめ」とかではなくて、自分ができたのだと思えるような、見出しの選び方がとても良いです。また、タイトルは「みんなと学ぶ算数」です。「わくわく〇〇」や「新しい〇〇」では、言われても具体性がないのですが、「みんなと学ぶ」には、学び合うという意図を感じ、本市の教育に合致すると思いました。

教育長 : ありがとうございます。私もほぼ啓林館を使ってきた教員でしたので、教師のほうから見たら啓林館のほうが「(なじみがあって) 教えやすい」、という思いは今も持っていますけれど、子どもが主体的に学ぶということを考えると、学校図書の方が子どもの立場に立って「こういうことを考えていこう」「こういうことを参考にしながら問題を解いていこう」など、それが分かりやすいのは学校図書の方か、と思います。もう一つの理由は、前は学習指導要領が変更になったときだったので、子どもの主体的・対話的な学習を求めていますね。

今回は学習指導要領が変わっておらず、求める学習も大きく変わりませんので、学校図書が良いと思います。

委員 : また、表紙が良いですね。田中達也さんという「ミニチュア写真見立て」作家さんの作品です。これ、一個一個細かく、算数は直接関係ないのですけれども、とても楽しくて大切にしてくれそうな表紙になっているなどと思います。それから啓林館は、立体的な写真で本当に出てくるように見えて、この2社は素晴らしい。

教育長 : 皆さんの意見は学校図書ということでしたね。算数は学校図書を推薦することをお願いします。続きまして理科です。では、理科についてご意見をお願いします。

委員 : 東京書籍、啓林館が良いなと思いました。東京書籍は、全学年の巻末にSDGsにつなげるページがあったので、いわゆる生活から理科になったときに自分たちの生活につなげてというところが良いと思いました。全体的に学習の流れが明確になっているというところも良いと思いました。啓林館も「くらしとリンク」という項目があり、生活と結びついています。そのようなことから、私は引き続き啓林館のままで良いかな、と思います。

教育長 : 他に、いかがでしょうか。

委員 : 啓林館は、科学的な思考が子どもの思考の流れで自然にできるように工夫されている、というのを感じました。それで学びやすいと思いました。それから、先ほども言われたように、実生活とのつながりが大切にされている。また、理科嫌いにならないでほしいと思う中、理科の楽しみ方を学べるというところが良いなと思いました。「学び合い」というグループ学習の場面が多数出てきているというところも本市に合うと思いますし、一番終わりには、割合や、帯グラフ、反比例など、算数とリンクしているところも良いと思いました。

委員 : ページの左側のところにもずっと、問題から結果「考えよう」まで、ずっと系統立てて学ぶので、あっち行ったり、こっち行ったりしないで集中して学習できる、という感じがありました。全部見たわけではないのですが、二次元コードの方も分かりやすいコンテンツが多かったというふうな印象もありましたので、啓林館を推します。あと、他にも少し出てはいるのですが、角島大橋とか秋芳洞とか本県ゆかりのものも出ていたのも嬉しいと感じました。

委員 : 東京書籍か啓林館かどちらも良くて迷ったのですが、活動・問題・予想・実験という流れは啓林館が良いです。今から理科を学んでいくのに必要なところについて、そのまま教科書を見て育ったら、きっと上手に理科がまとめられるようになるのかなと思い、一番見やすく学びやすい理科の教科書はその点で役立っていくのかなと思い、啓林館が良いと思いました。

教育長 : 私は、実は東京書籍推しだったのです。今は最初の結論からは変化したのですが、東京書籍はとてもビジュアルを重視しているなど思ったのです。理科は資料の鮮明さも大事ですから。ただし、自然科学を学ぶ中で課題解決、問

題解決、実験観察を重視した流れが一番うまくできているのが啓林館でしたので、私は啓林館も良いと思っています。皆さんの意見を総合して、理科は啓林館を推薦することをお願いします。

委員 : 信濃教育出版は教材が全部地元長野県の教材なのですかね。

事務局 : おっしゃるとおりで、地域行事を根幹に持ってこられていて、見本も中部地方を中心に送られているようです。

教育長 : では、生活科です。ご意見ありましたらお願いします。

委員 : 表紙を見た瞬間に、選定委員会に同席された校長先生とも話したのですが、生活はやはり低学年の子どもたちの理科とか社会とかの入口なので、絵本を読むように常に興味がある時にめくれるような教科書がよ良いではないかというのをお話ししたことが、すごく印象に残っています。その点で、私は光村図書が良いと思いました。(絵本作家の) ヨシタケシンスケさんの考え方もとても素敵なのです。「問う」というのでしょうか。今持っている価値観ではない視点で物事を見ていくというのは、学びの入口としてとても大事な気がしています。他の生活の教科書も確かに「考える」とか「問う」といったスタイルは当然あるものの、ずっと見ていたい教科書は光村図書のものでした。

委員 : 持って帰って、親御さんと一緒に読んでほしいですね。

委員 : 単元ごとの「家庭との連携」という部分で、「保護者の皆様へ」というのが本当に小さな位置で書いてあるのですが、それが、学ぶ内容だとか、家庭でできる協力のようなこととかきちんと分かるようにされている。担任の先生がそれを読むことだけでも子どもたちには大切と思いました。

委員 : 家で使う教科書とも見ることができますね。

委員 : 教科書に絵本作家さんの語り口調で考えてみたくなる仕掛けがあるというのも素敵です。そして、「こんなことも考えられるかもね」とか「どうしてだろう」、「何だろう」が、何度も出てくる。これまでと違う見方をさせてくれるところが、微笑ましい教科書ですね。

委員 : そのまま道德につながっていける感じの教科書ですよ。他社は全部、「知見を増やしていこう」という感じなのだけれど、光村図書は本当に今ある生活の中で見つけたりとか考えたりとか、親御さんと語るよう求めたりとか、会話を通して学ぶことができるところが他の教科書とは異なると思いました。

委員 : 裏側のところに「家庭においても子どもたちと語り合うきっかけとしてこの教科書をご活用いただきたい」ということが書いてありました。そこも大変重要と思いました。

委員 : ポップ調で教科書としてどうだろう、と最初これを見た時は思いました。教科書として見た時に他と全然違うからか、「こんな(ポップな)字で書いてある」

とか、「教科書はきちんとしたフォントでないと」という先入観がやはりあるので、教科書として感じてもらえますかね。

教育長 : 他はいかがですか。

委員 : このイラストは本当に面白いし、大人が見たら分かるという内容の部分がありますね。シュールな内容も特にたまにありますけれど、それでも小さい頃から慣れ親しんでいるということなら良いなと思います。最後のところで「ふりかえろう」というのもあって、この「ふりかえろう」が、そこに書いてある「問い」を丁寧にふりかえらせているという風な印象を持ちました。あと、「あいさつをしましょう」などもきちんと光村図書には入っていたということもありましたので良い点かなと。一ノ坂川の蛍もありました、これが別冊に綴じられていて取れる（取り外せる）のですよね。取り外せるのは使いやすいのかどうなのか。それについては一長一短とは思いますがけれども。

教育長 : 生活科はやはり教科書ばかりを見ていたら生活科にならない部分が多いので、何かその概念的な部分が多いのが他5社で、光村図書はイラストとかストーリーとか四字熟語につながるとか、何か（1つの概念の指導でなく）つながっていくものがある、そのようなイメージを持ちました。

委員 : (この絵本作家は) ものの見方・考え方が素晴らしい。子どもたちには面白いと思わせる人ですよね。子どもたちも大人に読んでもらうのが絵本です。幼い子どもずっと見ます。いろいろなものに出会わせてくれる。社会のいろいろな壁もこんな風に見たら、もっと違うと。応援してくれるような考え方も嬉しいです。

委員 : 「朝顔を育てても成長の早い子と遅い子があること」を「友達との違いを許容すること」と重ねてみたり、「僕の方が虫に人気があるみたい」と苦手な事物も友達であるかのようにとらえたり、そういう考え方が嬉しいと思います。

教育長 : 今から、例えば公園に秋を探しに行こうという時に、秋のものを見つけて、みんなで「これも秋の物だね。あれもそうだね。」と、見られることが大事で、この光村図書は何かよい視点を与えてくれそうですね。ということで、光村図書を推薦します。続きまして、家庭科は2社ですね。家庭科は開隆堂と東京書籍です。ご意見いかがでしょうか。

委員 : 箸の持ち方が気になります。東京書籍の方は、持ち方を説明しているのですが、こう下を添えてとていねいに指示したり、お椀の持ち方を扱ったりなど、美しい作法まできちんと書いてあるところは、日本人として大事と思ったところです。

委員 : 開隆堂は、随所に話し合い活動があります。「玉留め・玉結びはどうやったら上手になるか話し合しましょう。」などと。時間のない中、何でも話し合えば良いのだろうかという疑問に思うのです。自分で考えて練習に時間を費やすことも大事だと思います。

委員 : 専科の先生だけが指導するわけではないですから課題設定や進め方が大事です。分かりやすいのは東京書籍です。授業数の少ない科目で、考える問いとか話し合いに時間が取れないとなると、話し合い活動よりも実践にすぐつなげていく課題設定がなされている方が良いと思います。

教育長 : そういう学習をするという点では今までどおり東京書籍が良い、というご意見でよろしいでしょうか。続きまして保健ですね。ご意見がありましたらお願いします。

委員 : 学研は5・6年生の思春期の子たちが一番悩むときに、助けになってくれる内容だと思いました。東京書籍は連絡先が一番分かりやすい。学研は思春期特有の悩みが本当にたくさん載っていたので、「自分だけじゃない」ということに気づける手助けになるだろうと。一番悩むのは夜、一人でいるときと思われるので、学研や東京書籍のように、悩みの相談先が多い方が嬉しいです。

委員 : 東京書籍はLGBTQがあまり載っていないようです。道徳でも習うのですけれども、道徳には必要ですね。

委員 : 今は思春期特有のモヤモヤのところが手助けできないといけないと思います。

委員 : 公文のほうが若干情報量が少ない感じでした。日本は保健の学習をもっと詳しくやるべきだろうと。まだ少ないと思う。

教育長 : 今も不登校など増えて悩みを抱えている子どもが多い中で、心と体がアンバランスな子どもが救われることに力点を置いた教科書が良いのかもしれませんがね。

委員 : 授業をする先生は光文書院がしやすいのかなと思いました。ここだけは押さえようというようなものがあります。それが複数あります。

委員 : 確かに情報量が多いですね。

委員 : 教科書を学校に置いて帰るのであれば、その情報量もったいないという感じはします。さらに、学んだことが教科書だけで振り返りやすいと感じたのは学研です。

委員 : 東京書籍は書き込み部分がとても多いですね。だから、授業としては進みやすいのかなと思いました。

教育長 : 教師がやりたいことを創造するのではなくて、この教科書をそのまま使う先生にとっては書き込みが多いほど良いはずです。しかし、書き込み量ではなくて、子ども目線、子どもの視点に立っていくと、光文書院もおそらく授業をしやすいと思います。難易度を下げたり、子どもの思考に力点を置くとしたら、学研が良いのかなとも思います。

委員 : 歯については、きちんと書いてある方が良いです。

教育長 : よろしいでしょうか。これは委員さんによって意見は変わりますが、多数を占めた学研でいかがですか。それでは次は図画工作、いかがでしょうか。

委員 : 前回質問させてもらった対話型鑑賞ですが、いずれもそんなに動きを受ける感じがなく、違いもあまりないなというところがあります。しかし、その鑑賞の発端となる「作品」ですよね。有名作品が多いのは日本文教出版の方でした。ところで、全然違う視点ですけども、この日本文教出版の方、みんな子どもたちがマスクをしています。これを皆さん、どう思われますかね。

他委員 : 確かに、みんなマスクをしていますね。

委員 : それでも「友達と作品を見て話そう」というところが日本文教出版の方にはあるので、ちょっとは対話型鑑賞に近いという感想は持ちました。開隆堂は連携について特に触れられていて、広がりがあると思って良かったですけれども。

委員 : 開隆堂は誰が見ても指導しやすいという特徴があると言われていたのですが、
「芸術を指導される」という考えが私にはしっくりきませんでした。子どもたちが自由な発想で、自由に取り組みやすいと感じた日本文教出版の方が良いと思いました。

委員 : 私も教科書を見たときに、子どもたちが「これはできそうだ」や「やってみ
たい」、「工夫してみたい」と思いやすいのは日本文教出版というふうに思いま
した。また、平和を願っての勉強が含まれている点がとても嬉しいです。

委員 : 私も、日本文教出版の方が、子どもたちがどんどんイメージを膨らませて造
形しやすいと感じました。しかし、先程のマスクの指摘、親としてはとても複
雑です。せつかく表現を主体とする教科書なのに、閉じてしまっている感じを
見せるのは、求めるものを見失わせると感じました。

委員 : マスクがついている（ということは実際の最近の画像である）ので、子ども
たちも本当に楽しそうにやっているということが伝わって良いと思いますが。

教育長 : マスク論点は難しいですね。私も日本文教出版が良いと思います。やはり作
品を見て語るなどは良い鑑賞になるでしょうね。本市のピエンナーレの野外彫
刻などがあつたら嬉しいのですけれどもね。対話型鑑賞に近いものがあるなど
日本文教出版で良いと思いますが、よろしいでしょうか。では音楽、よろしく
お願いします。

委員 : 音楽は合奏等もあって、授業で（図画工作のような）自由にと表現とは
少し違うと思いつながら難易度や授業のしやすさを視点として拝見しました。教
育出版は、指導者のアプローチ次第ということがとても気になりました。楽
器等の難易度も高いように思います。どの先生でも同じように音を楽しめる教
科であってほしいなと思うので、教育芸術社を推薦します。

委員 : 私は最初、教育出版の方がよいと思ったのです。音階ですよ。音は階段で
一音ずつ上がっていくということが、こちらの教科書が分かりやすくなってい

と思ったのです。しかし、掲載楽曲が高めであるということは、私も感じましたので、そうであるならば、やはりいろいろな経験の先生方でも、同じように子どもたちと楽しめる形の方が良いと思ったので、今のままの教育芸術社でも良いのでは、と思います。

委員 : 教育出版の方は、例えば3年生だと、バイオリンとかチェロとか弦楽器が主で、フルートもあるのですけれど、教育芸術社の方はトランペットとかホルンとか、こういう管楽器も出されています。いろいろな楽器に興味を持って、オーケストラ等も鑑賞するような、そういう子どもたちになってほしいと思うので教育芸術社が良いです。

委員 : 教芸の方がアイコンによっていろいろ誘導、いろいろな質問を考えさせ、工夫させるといところが分かりやすいと思うし、吹き出しで指示しているところも良いと思いました。教育出版の方は、全校の合唱が良いですね。全校合唱の組み合わせで、低学年が主旋律やって、上のほうがハモっていくということを実施したら、それは良いものになるだろう、と思いました。若干、教育出版の方が説明等複雑な印象を持ちました。喉の奥を開いて歌おうという表現の仕方など分かりやすい良い点もありましたが、トータル的には教育芸術社の方が良いと思いました。

教育長 : 音楽は専科がまだ多いのですよね。経験のある教員からすると、教科書を変えないで、今の曲をより子どもたちが楽しめるよう工夫したいという、そういう思いの視点もあるかと思います。音楽は教育芸術社でよろしいですかね。では道德、ご意見をお願いします。

委員 : 一番優しくて読みやすかったのが光村図書で、説得力があるというか、優しいなど。心に訴える題材が多いと感じたのは光村図書でした。例えば6年生で、「いじめを許さない」の観点で『泣き虫』というのがあるのですが、その次の教材やコラムとも組み合わせられています。この胸の痛みを学んだら、今度は隣にいる人のことを考えるという流れです。さらに、有名人のコラムとつなげてこうなっています。「自分らしい、楽しいってなんだろう」、「学校ってなんだろう」、「友達ってなんだろう」、「嘘ってなんだろう」「生きる幸せってなんだろう」。大人が読んで共感でき、考えを膨らませることのできる題材が多い光村図書を推します。

教育長 : 他はいかがでしょうか。

委員 : 各単元が終わるごとに、題材について話し合うときの「考える・話し合う」というところも、光村図書のヒントがやはり多いというふうに思っています。どの先生が教えても選びやすく、行きつくところが同じになるようにきちんと指導できると思いました。

委員 : 光村図書が良いです。光文書院も問いの категория がすごく多いので、考え方の糸口は素晴らしいと思いましたし、現場が扱ってほしい題材がきちんと入っていましたが、内容的には光村図書の題材が一番問いかけとしては適しているのかなと思ったので、現状の光村図書が良いと思います。

委員 : 若干、光村図書のLGBTQの扱いがやや浅いとも思いました。少し突っ込んだ内容の題材も入っていたら、さらに良いと思いました。

教育長 : 他はいかがでしょうか。

委員 : 優しく諭してくれるとか、そういう場面をつくりたいというようなところが、分かりやすかった教科書が光村図書でした。

教育長 : メジャーな教材に「手品師」があるのですが、教科書会社によって学年が違うので、例えば光村図書から違う教科書に変えると、また同じことをやらないといけない。そういう可能性も出てきますね。読み物としてもとても心が温かくなるような教材が多いですかね。皆さん、光村図書でよろしいですか。ありがとうございます。では最後、外国語（英語）です。中学校はニューホライズンですかね。教科書の相違と小中の連携についての話が出ましたね。いかがでしょうか。

委員 : 前回、小学生に英語への苦手意識を持たせないように、楽しく学べるように、と光村図書が選ばれたと思うのですがけれども、小学校から中学校に入ってしまうことが多いという声を聞きました。それであれば、中学校使用のニューホライズンにスムーズにつながるような教科書が良いのではないかと思います。

教育長 : 他は、いかがでしょうか。

委員 : 光村図書は、教科書内の日本語が多いですね。

委員 : 今、3年生の外国語活動から入っていて、その後中学校に入って学びます。前回も述べましたが、中学校になったとき、単語をどれだけ覚えて読めて書けるかということが求められます。小学校でせっかく楽しんでいたのに、突然本当にたくさんの語が入ってくるというギャップによって、そこでいきなり嫌いになってしまうのではないか、ということを感じたのです。先程、委員さんがおっしゃったように中学校と連携した学び方ができる方が、小学校からのギャップが少ないと思っています。

委員 : 学力調査の英語の正解率が約9%と、大変低かったですよね。聞かれたことに考えて答える難しいテストですよね。7分ほどで答えなければならないテストです。

教育長 : 求めるレベルが高いですね。それを今の授業でできるかというところが難しいですが、文部科学省は求めているのですよね。

教育長 : 今回の結果を見て、文部科学省がこれをめざすための授業を創造できるのでしょうか。選んだ教科書を使って、効果が出るように授業改善を求め続けるのでしょうか。

委員 : 日本人はまず日本語に変換して、それをまた英語にしてという、頭の中でいろいろな作業をして英語を使うから、英語が難しくなっていると思いますので、そういう指導がしやすい教科書を選ぶ必要がありますね。

委員 : 語学なので、本当に単語を知らないと話せないですよ。

委員 : 私の周りに、喋るのは大丈夫で、定期テストの筆記になると難しく感じる子がいます。昔とは逆のようにも思います。

事務局 : それが一つの成果ですね。

委員 : 洋楽などは聞き取れますが、意味は分からないだろうと思うのですが、聞き取って、真似て歌うことができるのですよね。

教育長 : 日本の英語指導は読み書きを求め過ぎますよね。これについて紙のテストで結果を付けます。もうとにかく聞き取りが楽しく、コミュニケーションがしやすいようにできたら良いですね。

委員 : しかし、めざしているのは複数の技能をバランス良く伸ばすことですよ。

教育長 : そのためにも、小から中へと滑らかに接続していき、英語が苦手になる子を減らすため、私も東京書籍（ニューホライズン）にして良いのではないかと。皆様、よろしいでしょうか。

事務局 : 熱心なご協力ありがとうございました。では、確認をさせていただきます。国語は光村図書です。書写は国語との接続も考慮して光村図書です。社会は東京書籍から変更ありません。地図は同じく、帝国書院で変更ありません。算数は前回変更したということもあり、学校図書でもう一度学習到達度等をみていくというところです。理科は啓林館、これも変更していません。生活科が変更になりまして、光村図書をということです。家庭科は東京書籍、これは変更していません。中学校との接続も現時点では同じということになります。保健は学研に変更です。前は光文書院でした。学研は思春期の事例がきちんと揃っていて、より親切というご意見がありました。図画工作、一部マスクをしている部分が気になりましたが、その分、最近の子どもの自然な姿から伝わるものもある、ということです。また、子どもがどんどん進める技能教科ならでの教科書である、というご意見をいただきました。音楽は教育芸術社ということで、特に扱っている楽器に馴染みがあり、またいろいろな種類を扱っているところが良いということで、これも変更にはなりません。道徳が光村図書に変更になります。若干、LGBTQについての学習など、部分的に学びが浅いと感じる題材もあるということですが、本県の教材も使っていますし、どのような経験の先生に対しても優しく使いやすい教科書と感じられたということでした。最後、英語になりますが、東京書籍に変更です。ニューホライズンを使用させていただくことで、小中の連携がしやすくなることを期待したいということです。今回決めていただいた教科書は以上13種目です。ありがとうございました。8月31日までが非公開になります。本日の議事録等9月1日から公開しますので、お知りおきください。本日はありがとうございました。